



科学の眼

まなこ

発行: 姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話: 079-267-3961)
<http://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

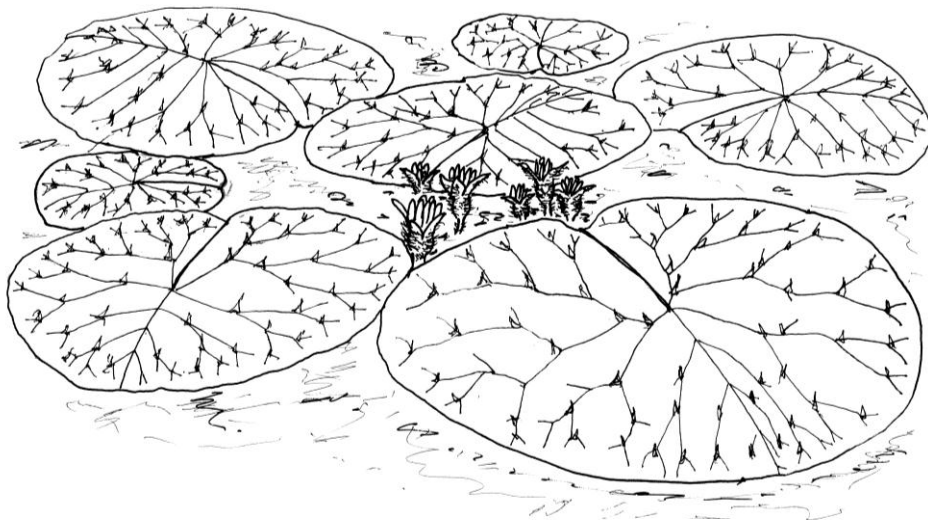
自生地を追われる

オニバス (スイレン科)

Euryale ferox

姫路市立御国野小学校長 古角 孝之

本種は、日本をはじめとするアジア東部・インドに自生する一年生水生植物です。日本では、本州・九州・四国の湖沼・河川に自生していますが、近年自生地が激減し絶滅危惧種Ⅱ類(環境省レッドデータ)に指定されています。葉は、直径約30～200cmにもなり、日本では最大の浮葉性の水生植物です。1911年には、直径267cmのオニバスが富山県氷見市十二町瀨(国指定天然記念物)にあったことが報告されています。8月～9月にかけて花(水面に紫路の開放花・水中に種が結実する閉鎖花)を咲かせます。一つの閉鎖花の中には約100個の種子が入っていて、10月頃、割れた閉鎖花から出てきた種子が水面に浮かびます。2～3日後、浮かんでいた種子は、水底に沈み、翌春以降の発芽に備えます。



開放花



閉鎖花

■オニバスの自生地の推移

約 80 年前(昭和初期)には、宮城県を北限とする本州・九州・四国の湖沼・河川に普通に見られました。現在では、宮城県では生息が見られず、新潟県新潟市(福島潟)を北限とする 50～100 箇所にはしか見ることができません。(表1・図1参照)

■オニバスの自生地激減の原因

①人為的な駆除

- ・ジュンサイなどの水草を採取する農作業に巨大で鋭いとげのあるオニバスの葉が邪魔。
- ・オニバスの葉が池一面を覆ってしまい、池が酸欠状態になってしまい、他の生物の生息の害になる。
- ・巨大なオニバスの葉による水の蒸散が激しく、ため池の水位が下がってしまい、農業用水に支障が出る。

②自生力の低下

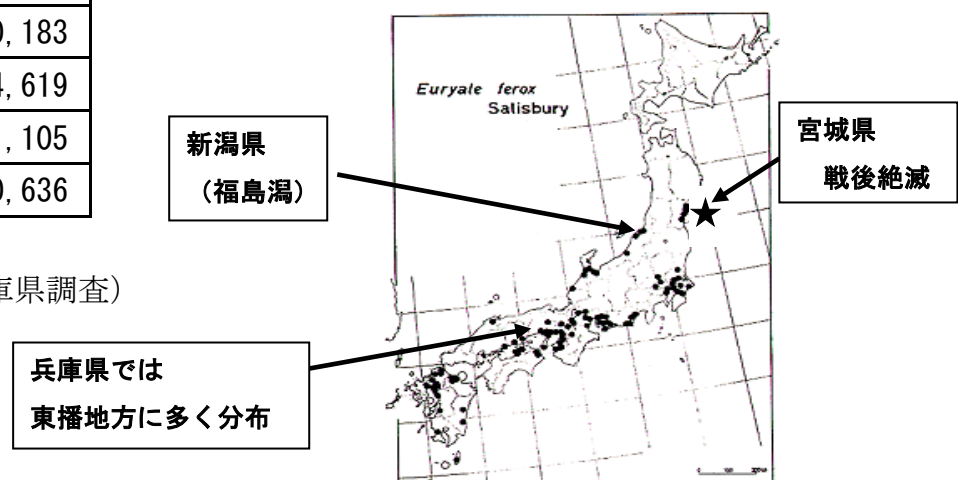
- ・ため池、湖沼、河川の危機的状況(開発による埋め立て、農業の衰退による放置に伴う外来生物の侵入・ゴミや生活排水などの水の汚れ)によって、生育することができない。

【表1】 ため池の数

1	兵庫県	43,347
2	広島県	20,183
3	香川県	14,619
4	大阪府	11,105
5	山口県	10,636

※全国約 21 万か所
(平成 21 年4月兵庫県調査)

【図1】オニバスの分布(角野 1994 より)



■兵庫県のオニバスの分布

明石市・加古川市・播磨町・稲美町などの東播地方のため池に多く分布しています。姫路市では、別所町(瀬戸池・大池)・大塩町(大池)・勝原区(丁池)に自生しています。しかし、これらの自生地も環境悪化の影響で、個体数が減少しています。

■オニバスの保護

全国的には、富山県氷見市の十二町潟の保護活動や氷見小学校の栽培活動が有名ですが、その他の地域でも自然公園や県・市郡町指定のため池でも保護活動が進んでいます。姫路市でも、姫路市立別所小学校において、長年、瀬戸池のオニバスの種子を採取してきて発芽させ、その栽培活動に取り組まれています。また、兵庫県立姫路別所高等学校では、瀬戸池のオニバスの種子を採取し、発芽させたオニバスを瀬戸池に戻す取り組みがなされています。